

# お互いのよさを認め合える居心地のよい学級づくり

～CSSの実践とその定着化を通して～

生徒指導・教育相談班 齊藤 晴代(小学校教諭)

## 研究の概要

本研究では、児童がお互いのよさを認め合いながら、よりよい人間関係を構築していくことで、学級に居心地のよさを感じ、充実した学級生活を送れることを目指した。そのためには児童の実態に合った「学級で必要とされるソーシャルスキル(以下CSS)」を系統立て実践することが有効であると考えた。さらに、児童が日常生活の中で学習したスキルを生かしていくには、そのスキルの定着化が必須であると考え、定着化のための活動を計画的、段階的に行った。このCSSの実践→定着化という流れは、対象とした児童が2年生であり、様々な社会性を身に付けていく発達段階にあるということからも効果的であると思われる。

## 【CSSとは…】

河村茂雄氏らが開発したもの。集団内で級友とかかわるうえでのルール。「配慮のスキル」「かかわりのスキル」の二つの領域から成る。例えば、話す・聞くなどのコミュニケーションをとる際のスキル、グループ活動のリーダーシップやフォロアシップの在り方など。

いざ実践!!!

✦ところが…  
数回実施しただけでは、なかなか身に付かず、日常生活で生かしていけない

そこで…

CSSをより**定着化**

させていくことが**大事!**

すると…

日常生活でも生かしている

ポイントは、**どれも継続して**行っていくこと

## 定着化のための具体策

- ① 振り返り活動の徹底 → スキルの振り返りを帰りの会などで発表したり、ワークシートなどに記入したりする
- ② 目に見える評価 → スキルをしっかり実践できたら、振り返りカードなどにシールを貼ったり、コメントを付けたりする
- ③ お互いにほめ、認め合う場の設定 → 振り返りカードの内容やスキルをすすんで実践している児童の様子を紹介し、そのよさをほめ、認めていく(朝・帰りの会、その他日常的に)
- ④ 教室掲示による啓発 → 活動で用いた板書カード、児童のコメントなどを教室に常時掲示して、児童の意識を喚起する

## 実践計画

### あいさつ名人になろう (かかわりのスキル)

ねらい…だれに対しても気持ちのよいあいさつができるようになる  
実践…いろいろなあいさつの言葉やあいさつをするときの気持ちを考える

### あいさつ週間 (番号は上記具体策の番号)

- 「めざせ!! あいさつ名人」を掲示④
- 「あいさつゲーム」…朝の会、帰りの会①
- 振り返りカード…だれとあいさつできたか①②

### やくそくの王さま (配慮・かかわりのスキル)

ねらい…みんなで決めたルールはきちんと守る  
実践…クラスで必要なルールをみんなで考える  
→みんなで決めた約束を守ることをお互いに誓う

### やくそく週間 (番号は上記具体策の番号)

- みんなで決めた約束の確認と教室掲示による喚起④
- 「やくそくの王さま」カードでの振り返り。担任のコメントなどを添える①②③

### うれくなる言葉 (配慮のスキル)

ねらい…友達にうれくなる言葉を掛けられるようになる  
実践…「うれくなる言葉」をたくさん見つける  
→うれくなる言葉を隣同士でお互いに掛け合う

### ほかほか週間 (番号は上記具体策の番号)

- うれしい言葉の花を咲かせよう(教室掲示)④
- うれしい言葉やうれしかったことを集める(振り返りカード・帰りの会など)①②③

### めざせ、ほめほめキング (配慮のスキル)

ねらい…友達の良いところを見つけ、お互いに認め、信頼し合う  
実践…「〇〇がすごい人」探しをする  
→お互いのよさをいろいろな言葉で具体的にほめる

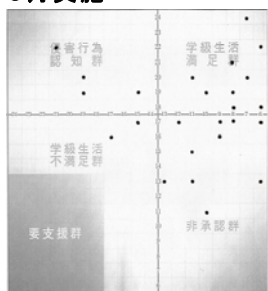
### ほめほめ月間 (番号は上記具体策の番号)

- 「友達の良いところ見つけちゃおう」…決められた相手の良いところを見つける①④
- …たくさん友達の良いところを見つけれられた児童にごほうびシールを貼る②③④

## ☆Q-Uの結果☆

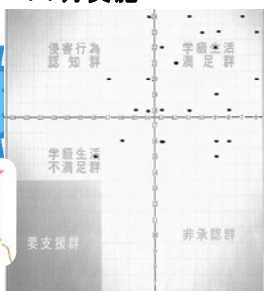
みんないいところがあるんだね

6月実施



学級生活満足群に属する児童が増えた!  
(33%→54%)

11月実施



## まとめと今後の課題

これまでの実践を通して、児童一人一人がお互いのよさに気付き、認め合う雰囲気が学級の中にでき、クラスに居心地のよさを感じている児童が増えてきたと考えられる。

一方、学級生活満足群に属さない児童もいまだいることから、今後も継続して本研究の実践を行っていくとともに、さらに、学級・児童の実態にあったCSSの選定、実践、定着化を図っていくことが課題である。

また、児童の実態を担任の見取りと併せて、Q-Uなどを用いて、客観的に把握していくことも大切であると考えられる。

